季報

二松学舎大学附属図書館
Quarterly Report

P2　デジタル化の波と古典籍　市來津由彦

P2～3　新入生にお薦めの本
中川　桂　／　松浦史子　／　山崎和正

P4～5　吉原歴史散歩

P6　e-Gov をのぞいて、行政サービスや施策に関する情報を見てみよう　／　書評キャンパス

P7　本学所蔵資料紹介　／　作家のおやつ巡り③

P8　本学教職員著書紹介

No.112

2022（令和４）年３月

デジタル化の波と古典籍

文学部中国文学科　特別招聘教授　市來津由彦

本学は五年だけであったが、四十年にわたる大学教員生活からこのたび退くことになった。中国文学科教員、研究者、また図書館を利用する者としていうと、この四十年のうち近三十年の変化の最たるものは、文献や用語の調査・検索をデジタル化の波が覆ったことである。この波以前にテキスト読解訓練を受けた身からすると、この変化は多大な便利さをもたらした。デジタル的手法の実施により、目的とする検索の結果が画面にたやすくかつ立ち所に現出する。時代の趨勢として、以前の様態にはもう戻らないし、戻れない。

とともに、一抹の懸念も覚える。すなわち、デジタル化には載らないアナログ的要素が、画面上から隠れてしまうという側面がここにはある。図書で言えば、たとえば線装本の漢籍、準漢籍等は、近代以前からの伝承の経緯がみなあり、紙質や表紙、製本の作り、印章、読んだ人の書き込み、広告等、伝承の痕跡が何ほどかあることが多い。その書籍を読み保存した人々が互いに関わり、神田の古書店等も含め、現代の保存場所に至っている。デジタル化紙面画像をみるときには、本文文字を情報的に処理することに傾き、こうした痕跡をあまり受けとめなくなる。そうしたデジタル的画面感覚に慣れるのがこわい。また、保護のため古典籍は別置する傾向にある。今の若い人は、古典籍が伝えられることへの畏敬の感覚を持てないかも知れない。

図書館には例年、新入生向けの図書館案内を実施していただいている。加えての願望だが、貴重本でなくてもいいので実際に線装本等にさわることも含め、基礎ゼミ、プレゼミの最終段階あたりで、古典籍本の扱いと保護の講習を、図書館と各担当教員の協力でできないものであろうか。古典籍に向かい合うと様々な思いが浮かぶ。その書が目の前にいま「ある」ことに思いを馳せ古人と対話するには、さわる感触を実地に味わうことこそが肝要であるように思う。

新入生にお薦めの本

（価格はすべて税込、2022年２月現在）

文学部国文学科　教授 中川　桂

①『すごい「会話力」』（講談社現代新書）
著　者：齋藤　孝
発行所：講談社　2016 年　880 円

読書の効用、とくに古典の必要性を説いたりしつつ、さまざまな局面での会話の重要性を述べている。雑談から始まって高い会話力に至るまで、つまりはコミュニケーション能力を高めるには参考になりそう。話題はわりに多岐に亙っているが、その分読みやすく、どこかで役立つ要素がありそうなので新入生におすすめします。

②『「かたり」の日本思想－さとりとわらいの力学』（角川選書）
著　者：出岡　宏　発行所：KADOKAWA　2018 年　1,870 円

大学で哲学を教えている著者が、古代の芸能から能、狂言、歌舞伎に落語まで、伝統芸能を取り上げて日本の思想性、というよりは人間の生き方を説明しようとしている。軽妙な文体で、本書中で話題になる芸能作品を一度見てみようか、と思わせる魅力がある。少々難しいところも辛抱して読めば、芸能の基本的な知識が身につくに違いない。

③『カラー版　東京で見つける江戸』（平凡社新書）
著　者：香原斗志
発行所：平凡社　2021 年　1,155 円

最後に読み物ではなく、ガイドブック的な一冊を紹介したい。大学からも程近い江戸城を中心に、大名庭園、将軍家ゆかりの寺社など、東京で出会える江戸の名残を豊富な写真と共に紹介している。いまの東京が江戸の歴史の上に成立していることが視覚的にも分かりやすい。とくに東京都外から進学した新入生は、この本を片手にあちこちを探訪してほしい。

文学部国文学科　准教授 松浦史子

①『古代中国の24時間』（中公新書）

著　者：柿沼陽平
発行所：中央公論新社　2021 年　1,056 円

2021 年末に発行されたばかりの新書。漫画『キングダム』の主人公秦の始皇帝や『蒼天航路』の主人公三国魏の曹操は、こんな毎日を生きていた！という、古代中国の人々の生活（衣食住から性愛まで）を紹介した著書。著者は若き気鋭の史学者である。学術性は担保しながら、若い人達の興味を掻き立てるような平易な語り口で書かれている。歴史に興味のなかった方々にもぜひ読んで頂きたい。（「王様のブランチ」でも紹介され、現在、中国・台湾・韓国での翻訳版作成中）。

②『この世のキワ－〈自然〉の内と外』（アジア遊学239）

編　者：山中由里子，山中仁史　発行所：勉誠出版　2019 年　3,520 円

③『驚異と怪異　想像界の生きものたち』

著　者：山中由里子　発行所：河出書房新社　2019 年　2,970 円

続く二冊は 2019 ～ 20 年度、国立民族学博物館主催の特別展示「驚異と怪異」の図録および関連の書籍（筆者も参画）。近代以降、科学に証明できないモノやコトはオカルトの範疇に閉じ込められてきた。では、近代以前の人々はそれらをどの様に捉えてきたのか。②は古今東西の人々が「世界のキワ」に想像した「驚異と怪異の世界」について各専門家が一般向けに紹介した論集。③はその精髄をピックアップした特別展示会用の図録。（第 61 回全国カタログ展・図録部門金賞ほか受賞）。

図書館　統括リーダー 山崎和正

①『図書分類からながめる本の世界』（JLA図書館実践シリーズ:16）

著　者：近江哲史　発行所：日本図書館協会　2010 年　1,980 円

図書館は、本を探しやすくするために、「NDC（日本十進分類法）」を使い、本の内容ごとに番号を付けて、同じテーマの本が近くに並ぶようにしています。本書は、「5 類　技術・工学」や「7 類　芸術・体育」といった NDC の分野ごとにどのような本が並べられているかを紹介しています。NDC を知り、図書館の本の分類の仕方と並べ方を覚えると、図書館での調査がもっと便利になり、もしかしたら、思いがけない本と出合えるかもしれません。

②『18歳の著作権入門』（ちくまプリマー新書　225）

著　者：福井健策
発行所：筑摩書房　2015 年　902 円

図書館の本を一冊まるごとコピーすることはできません。それは、本が「著作権」によって守られているからです。本書は、本に限らず、音楽や動画などの「著作権」について分かり易く解説しており、「著作権」を侵害せずに作品や文章を引用するための方法を学ぶことができます。各章の最後にチェックテストが付いているので、理解度を確かめながら読み進められます。

③『書医あづさの手控（クロニクル）　書誌学入門ノベル!』

著　者：白戸満喜子　発行所：文学通信　2020 年　1,980 円

書誌学とは、「図書を研究対象として、分類・解題・鑑定などを科学的に行なう学問」（『日本国語大辞典』）のことです。本書は、現実には存在しない職業である書医（書籍のお医者さん）の主人公が、家業を継ぐために修行しながら、古典籍の知識を深めていくストーリーで、書誌学の概要を知ることができます。

吉　原　歴　史　散　歩

「季報」108 号と 111 号では、向島や谷根千の文学史跡を紹介してきました。2022 年 4 月、文学部に歴史文化学科が新設されるにあたり、今号では、浮世絵の美人画、黄表紙や洒落本、落語や歌舞伎の演目にも登場し、江戸文化を語るうえで欠かせない吉原を取り上げます。歴史的面影を求めて、台東区浅草から荒川区三ノ輪方面を散策してみました。

江戸時代に幕府公認の“遊郭”として栄えた吉原は、元々 1608 年に日本橋葺屋町（現在の中央区人形町）に開業しましたが、江戸城下の人口増加により、1657 年に千束日本堤下三谷（現在の台東区千束）に移転させられました（図 1）。

図 1　今戸箕輪浅草絵図「江戸切絵図」

その当時吉原へ行くには、駕籠や徒歩の他に、懐に余裕があれば、猪牙舟（図 2）に乗って隅田川を上り、山谷堀（図 1 ⟶）で降りて日本堤を北西に向かいました。現在、堀は埋め立てられて山谷堀公園①になっています。園内には、猪牙舟の模型②や「牡丹載せて今戸へ歸る小舟かな」と吉原との舟路の光景を詠んだ正岡子規の句碑があります。

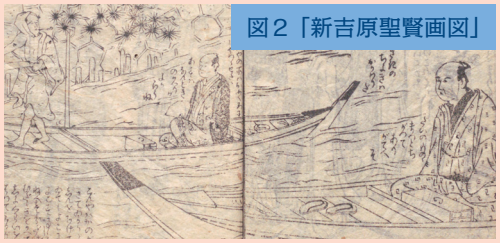


図 2「新吉原聖賢画図」

山谷堀公園を抜けて少し歩くと、「吉原大門」の交差点が見えてきます。ガソリンスタンドの脇にある木は「見返り柳③」と言われ、吉原遊郭から帰る客が後ろ髪を引かれて振り返ったことからそのように呼ばれています。そして「見返り柳」から、吉原の入り口である大門までの道は五十間道と呼ばれていました（図 3）。この道は登楼の様子を外から見られないように大きくカーブしていて、現在もそのままの形で残っています④。当時は道沿いに編笠茶屋が軒を連ねていました（図 4）。茶屋は登楼の際に顔を隠したい客へ編笠を貸したり、初めて吉原を訪れた人のために案内をしたりしていたといいます。五十間道を抜けると、江戸時代は黒塗り木造のアーチ門があったという道の両脇には吉原大門跡を示す柱⑤が立っています。吉原の周りは、遊女の逃亡を防ぐために、幅約 3 m もあるお歯黒溝と呼ばれる堀で囲まれ、出入り口はこの吉原大門の一か所のみでした。現在は一部で堀の名残り⑥が確認できます。

図 3「新吉原之図」

図 4「繪本江戸みやげ」

※掲載している参考図版は、全て国立国会図書館デジタルコレクション内の著作権満了インターネット公開画像から転載しています。

吉原大門をくぐると、中央にはメインストリートである仲之町通りが延びていました（図5）。吉原のガイドブック『吉原細見』によると、最盛期には約3千人もの遊女が在籍していたそうです。遊女屋は、大見世、中見世、小見世、さらに下層の河岸見世と、はっきりランクが分かれていました。遊女にも太夫（たゆう）－格子（こうし）－散茶（さんちゃ）などのランクがありました。上級遊女ともなると、和歌・漢詩、茶道・活け花、三味線、囲碁・将棋など、幅広い教養を兼ね備えていました（図6）。浅草神社の鳥居脇に、粧太夫（よそおいだゆう）という花魁（おいらん）が柿本人麻呂の和歌を万葉仮名で書いた碑⑦があり、遊女の教養の高さが伺えます。

盛った髪型や瀟洒（しょうしゃ）な櫛やかんざし、艶やかな打掛など当時のファッションリーダー的な華やかなイメージもある遊女ですが、多くの遊女にとって吉原の生活は、楼主による折檻や病気と隣り合わせの過酷な環境でもありました。亡くなった遊女は投込寺である浄閑寺⑧に運ばれました。浄閑寺には新吉原総霊塔があり、そこには「生まれては苦界死しては浄閑寺」と刻まれています⑨。

吉原神社⑩は、かつて吉原遊郭に祀られていた大門の手前にあった吉徳稲荷社と、廓内の四隅にあった榎本稲荷社・明石稲荷社・開運稲荷社・九郎助稲荷社の5つの稲荷社を合祀して、1872年に建立されました。また、吉原神社の近くにある吉原弁財天⑪は、関東大震災で亡くなった遊女を供養するために1926年に建立されました。

「廻れば大門の見返り柳いと長けれど、お歯ぐろ溝に燈火うつる三階の騒ぎも手に取る如く・・・」で始まる樋口一葉の代表作『たけくらべ』は、紀州の極貧の村から、姉が身売りされたときに一家で吉原にやって来た少女美登利とお寺に生まれた少年信如の淡い恋心を描いた作品です。この作品には、一葉が1893年に吉原に隣接する下谷龍泉寺町へと転居し、吉原で働く人々や子供たちと日々接していた体験が色濃く反映されています。現在一葉の旧居跡には碑と案内板⑫があるだけですが、近くに台東区立一葉記念館⑬があり、一葉の書簡や草稿が展示されています。また、記念館の近くにある千束稲荷神社⑭は、『たけくらべ』にも描かれ、境内には一葉の胸像⑮があります。

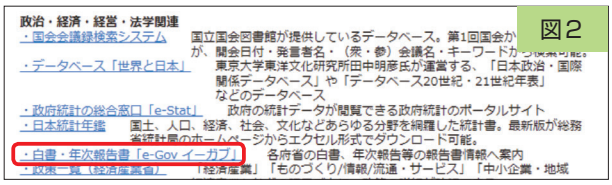
吉原周辺は江戸時代の区画が今も尚残っているので、当時の姿を思い浮かべながら散策してみるのも一興です。

図5 吉原仲之町「東都三十六景」

図6「新美人合自筆鏡」

e-Govをのぞいて、行政サービスや施策に関する情報を見てみよう

図書館ホームページのトップページにある「探す・調べる」という項目の一番下に「リンク集」があります（図 1）。そちらをクリックすると、各分野のお役立ちサイトが紹介されています。その中の「政治・経済・経営・法学関連」の中に［白書・年次報告書「e-Gov　イーガブ」］とあります（図 2）。「e-Gov」のトップページに「行政サービス・施策に関する情報」とあります（図 3）。「災害・非常事態」や「環境」など 16 分野に分類されており、その中の一番下の右から 2 番目「政府について」の上から 3 番目に「白書等」とあり（図 3 赤枠）、クリックすると、各省庁の白書を閲覧することができます。



その他にも多くの情報が掲載されています。新型コロナウイルス感染症は、今もなお世界的な流行を見せています。そこで「健康」の項目をみると「感染症情報」があります（図 3 緑枠）。それをクリックすると、「データからわかる―新型コロナウイルス感染症情報」という厚生労働省のサイトの案内があり、最新の新型コロナウイルス感染症の情報を見ることができます。

また、こちらの図 3 には載っていませんが、e-Gov のトップページから現在施行されている法令の検索などもできます。いろいろな事柄が調べられるこのサイトをのぞいてみて、レポートや論文の根拠資料に活用してみてはいかがでしょうか。

書評キャンパス

「書評キャンパス」とは、本学附属図書館と千代田区立千代田図書館と週刊読書人との共同企画です。この 3 年実施しています。

今年度も「書評キャンパス」を募集したところ、下記の学生の応募があり、執筆した書評が「週刊読書人」新聞（2022 年 1 月現在）に掲載されました。この書評は、千代田図書館内に展示されます（2022 年 5 月予定）。

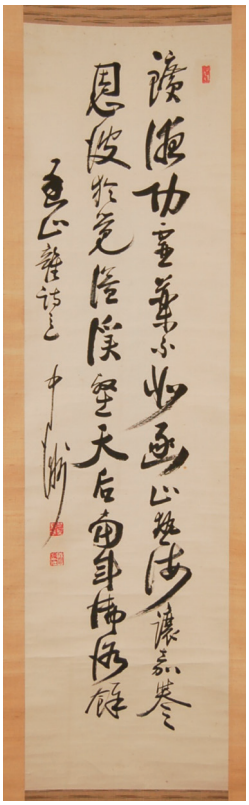
過去 2 年間に掲載された本学学生の書評は、『書評キャンパス at 読書人』（請求記号 019.9-S-2017 ～ 2020）に掲載されていますので、併せてご覧ください。

「週刊読書人」新聞掲載日	書　　名	氏　　名
8 月 27 日付（第 3404 号）	山田　明 著『キャプテン 君は何かができる』（学研プラス）	文学部国文学科 2 年　福留　舞
9 月 3 日付（第 3405 号）	宇佐美りん 著『推し、燃ゆ』（河出書房新社）	文学部国文学科 4 年　東　蒼大
9 月 10 日付（第 3406 号）	村田沙耶香 著『地球星人』（新潮社）	文学部国文学科 4 年　中野愛梨沙
9 月 17 日付（第 3407 号）	萩原慎一郎 著『歌集 滑走路』（KADOKAWA）	文学部国文学科 2 年　大澤悠乃
10 月 15 日付（第 3411 号）	ソン・ウォンピョン 著『アーモンド』（祥伝社）	文学部国文学科 2 年　横山史奈
10 月 22 日付（第 3412 号）	葉室　麟 著『蜩ノ記』（祥伝社）	文学部国文学科 1 年　瀬戸咲良
11 月 5 日付（第 3414 号）	寺地はるな 著『わたしの良い子』（中央公論新社）	文学部国文学科 3 年　佐藤みゆ

本学所蔵資料紹介

三島中洲書幅　明治十三（一八八〇）年

三島中洲（一八三一～一九一九）…本学創立者。明治十（一八七七）年六月大審院判事を退職、同年十月漢学塾二松学舎を設立。明治二十九（一八九六）年東宮侍講、明治四十五（一九一二）年新帝（大正天皇）の侍講となる。大正四（一九一五）年宮中顧問官に任じられ、一等官に叙せられた。



鑛液功靈藥不如　鉱液の功霊　薬も如かず
函山熱海讓嘉譽　函山　熱海　嘉誉を譲る
恩波猶覺溢溢壑　恩波　猶ほ覚ゆ　渓壑に溢るるを
天后當年御浴餘　天后　当年　御浴の余

伊香保温泉の湯の効能の不思議さは、薬以上にすぐれている。有名な温泉地である箱根や熱海も、すぐれた評判において、一歩譲る程だ。その上、更に、恵みの波が伊香保の谷にあふれているのを感じる。

それは、皇太后が昨年、入湯なさった、その余波である。

（石川忠久編『三島中洲詩全釈』第五巻より）

作家のおやつ巡り③

「久保田万太郎君の「しるこ」のことを書いてゐるのを見、僕も亦「しるこ」のことを書いて見たい欲望を感じた。震災以来の東京は梅園や松村以外には「しるこ」屋らしい「しるこ」屋は跡を絶つてしまつた。その代わりにどこもカツフエだらけである。・・・」 ※1

これは、芥川龍之介の随筆「しるこ」の一節です。『季報』111号でも紹介したとおり、芥川は大の甘党でした。芥川がこよなく愛した浅草・梅園は今も営業し、田舎しるこ（つぶあん）と御前しるこ（こしあん）の二種類があり、どちらもほどよい甘さとなめらかな食感です。

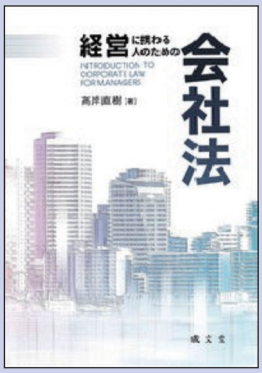
浅草生まれ、浅草育ちの小説家で俳人の久保田万太郎は、「味の自由」に「汁粉は「喰ふ」ものか、「飲む」ものか？十年まへ、わたくしは、いまは亡き芥川龍之介と、熱心に、それについて検討した。」※2と書いています。芥川と久保田とが真剣に「しるこ」について検討している姿を想像すると、ほほえましくもあります。さて、皆さんは「喰ふもの」「飲むもの」、どちらですか？

雷門から入ってほど近い梅園のおしるこは、まだ肌寒いこの季節にぴったりの一品です。

※1　「しるこ」『芥川龍之介全集　第15巻』所収　岩波書店刊
※2　「味の自由」『久保田万太郎全集　第12巻』所収　好学社刊

本学教職員著書紹介

『経営に携わる人のための会社法』



高岸 直樹 著
（成文堂、2021 年 9 月 20 日発行）
A5 判　212 頁・2,200 円＋税
ISBN：978-4-7923-2770-5

みなさんは企業に親しみを感じますか？　意識したこともない、という人もいるかもしれません。しかし、みなさんの日常生活を豊かにしてくれるファッション、グルメ、エンターテインメントなどは、さまざまな企業がみなさんに提供しています。卒業後は、多くの人は企業に就職し、また、教員や公務員として企業と接することになります。将来、起業する人もいることでしょう。実は、みなさんの身近に企業はあるのです。

これら企業の大半は「株式会社」です。ビジネスを展開するには多額の資金が必要で、ひとりで準備するのは大変です。しかし、少額ずつでも多数の人が出資すれば多額の資金を確保することができます。もっとも、出資した多数の人がみんなで会社経営を担うと、「船頭多くして船山に上る」ことになりかねません。そこで、出資した人々が経営者を選び、経営を委ねることとしています。ただ、経営にはリスクがつきものですが、経営者の失敗を出資者が無限に負うこととすると、怖くて誰も出資しません。そこで、出資者の責任は出資額までとする有限責任の原則が必要となります。これらが株式会社の考え方です。株式会社の出資者を株主といいますが、日本で、この株主有限責任が法的に担保された株式会社である銀行（第一国立銀行、現在のみずほ銀行）を最初に設立したのは、本学舎長も務めた渋沢栄一です。

株主有限責任の原則により株主が負わないリスクは、株式会社と取引をする人が負うことになります。そこで、出資者、経営者、取引先の利益と義務を調整するためにさまざまなルールが必要となります。このルールを定めている法律が会社法です。株式会社は、環境や社会に対しても責任を負っていますが、これも経営者の責任ですね。

社会人になるということは、なんらかの形で、会社経営に携わる一員になるということです。本書は、みなさんの視点に立って基礎から会社法を解説したものです。なぜ起業家は株式会社という制度を選ぶのかから始まり、株式会社のファイナンス、ガバナンスなど、社会人として必要な知識を得ることができます。株式会社の資金調達に必要な金融商品取引法についても触れています。ぜひ図書館で一度ご覧ください。

国際政治経済学部国際経営学科　教授　高岸直樹

編集後記

季報 112 号をお届けします。
コロナ禍が収まらない中、執筆していただいた先生方をはじめ、皆様のおかげで何とか発行することができました。
今号は「新入生にお薦めの本」や「歴史散歩」など盛りだくさんの内容がギュッと詰められた一冊になっております。ぜひご一読ください。
（S・A）

二松学舎大学附属図書館
季　報
第 112 号

発行日　2022 年 3 月 15 日
発　行　二松学舎大学附属図書館
九段図書館　〒 102-8336　東京都千代田区三番町 6-16
電話：03-3263-6364
柏図書館　〒 277-8585　千葉県柏市大井 2590
電話：04-7191-8758
印刷所　株式会社 サンセイ